

古代史の海文化 改題

古代史の海

第 108 号 2022 年 11 月

【巻頭言】

古代社会の残滓……………河越 尚司 表 2

【論文】

白鳳期の紀伊国造……………寺西 貞弘 1
 日出処天子の意味……………三浦 啓伯 8

【小休止】 会員の広場

陶邑の爾木多……………渡部 正路 19
 アンデス通信⑥……………市木 尚利 21
 「様式」概念について考えること

【新刊紹介】

中村 修 著『乙訓の原像・続々編』（志学社刊）……………上遠野浩一 23
 安羅の起源……………渡部 正路 26

【論文】

戊子年銘釈迦三尊像の制作年代についての一考察……………山下 輝幸 31
 狭山池・古市大溝・丹比大溝・河合大溝
 —記録されなかった大開発—……………上遠野浩一 46
 編集後記 63

古代史の海の会

河越 尚司

古代史を理解する上で戸惑うのは、婚姻や相続の形態が現代と異なることである。日本では土地開墾の限界によって等分割相続が不可能になった鎌倉時代以降、父系原則による一子相続の直系家族が社会の主流であり、父方・母方のどちらかに一時的に同居する双処居住制や、上の子が独立して末子が同居する末子相続など、理論として理解しても、なかなか感覚として実感できない。

しかし、現在の家族類型の研究に衝撃を与えたエマニュエル・トッドの『家族システムの起源』（藤原書店二〇一六）では、家族類型が変容・伝播する一方、周辺には古い核家族型の家族類型が残存することを明かにした、例えばフィリピンでは、上の子から海外に出稼ぎに行き、末子が老いた父母の面倒をみるため同居するそうだが、これは末子相続の残滓であり、末子相続も実態を知れば納得できる。

また日本も周辺部の西南地方に古い起源的核家族の残存を報告している。それで思い出されるのがサザエさんである。マスオさんは婿養子ではないのに同居していることが不思議がられるが、これは母系居住型である。作者が佐賀出身で九州の新聞の連載だったことから、元々は違和感のない設定だった。古代の残滓は以外に身近だったようだ。

〈会員・投稿規定〉（二〇一九年七月改訂）

- ◎ 本誌の定期購読者を本会会員とし、投稿者は本会会員であることが原則とします（依頼論文の場合はこの限りではありません）。
- ◎ 投稿論文は日本古代史、これに関連する諸科学（考古学、民俗学、人類学、文学等）を内容とし、未発表のものとしめます。
- ◎ 論文以外は会員広場欄に掲載します。書評や論文評、紀行文等、歓迎します。
- ◎ 投稿は電子データでお願いします（CD-ROM、Eメール等）。紙原稿は特に必要ありません。縦書き、26字×24行×2段に組み、図表、データも入れ、レイアウトをしたものをお送りください。紙のみの投稿は不可とします。投稿された媒体は返却しません。
- ◎ 投稿原稿は編集部で読み、修正をお願いすることがあります。
- ◎ 投稿は一二〇〇〇字程度（図版・表・注含む）としますが、大幅に超える場合、分載も検討します。編集委員会に一任ください。
- ◎ 投稿のメ切りは特に設けず、原稿が揃えば、編集会議を開き、次号目次を決定します。掲載決定連絡は編集会議終了後、速やかにいたしますが、原稿がなかなか揃わないときなど、お待ちいただくことがあります。
- ◎ 投稿原稿の採否は編集委員会に一任ください。
- ◎ 掲載者にはご希望があれば、有料ですが、掲載論文の抜刷を用意します。また掲載号については、幾冊か買い取りをお願いします。買い取り冊数は特には定めませんが、本誌の財政状況をかんがみ、ご協力のほどお願いします。

【会費納入のお願い】

本誌は古代史研究の裾野を広げるために、アカデミズムも在野も含んだ、古代史の科学的研究を希求する人々が集い議論する雑誌です。

会費は一年分四〇〇〇円です。ばら売りの場合は一冊一五〇〇円です。号数を明記してご注文ください。年四回出すことを目標にしていますが、諸事情により三回になることもあり得ます。会費は原則として前納です。

本誌は九月切り替えですので、九月までに来期の会費の納入をお願いします（その際、幾分かのご寄付をいただければ大変ありがたいです）。振替用紙は原則として十月号に同封します。会費・ご寄付の別をご記入の上、お振り込みをお願いします。

購読を中止される方は、その旨を葉書・FAX・メールにて古代史の海編集委員会にご一報ください。電話連絡は不可とします。購読中止の連絡のない方で会費未納の方は、一期に限り送付しますが、正式な退会の際に送付分を含めてのご精算をお願いします。逆に退会表明されましたも、その年度分はお送りします。

新規ご加入希望の方は、郵便振替用紙に「新規加入・ご住所・お名前・お電話番号・〇年〇月入会希望」と明記の上、本誌奥付記載の郵便口座に四〇〇〇円、お振り込みをお願いします。

これを機会に、古代史研究を希求する方のご入会をお待ちしております。

古代史の海 編集委員会

古代日本海文化改題 古代史の海 第108号

2022年11月30日発行

編集・発行：古代史の海 編集委員会

〒573-0084 大阪府枚方市香里ヶ丘6丁目4-9 上遠野浩一気付

Email kodaishinoumi@yahoo.co.jp

URL <http://kodaishinoumi.sakura.ne.jp/kodaishi/index.html>

スタッフ：代表 上遠野浩一

会計 河越 尚司



郵便振替口座：00920-0-179917 「古代史の海」

制作協力・印刷製本：有限会社 高島印刷

〒571-0068 大阪府門真市大倉町19-19

TEL：06-6905-3992 FAX：06-6905-3998



狭山池（北堤から臨む）